

次期「北海道創生総合戦略」の策定について

1 次期戦略策定スケジュール

時期	内容		
R5年度 7月～10月	道民意向の把握	地域の現状や課題等に関する道民意向の把握（地域関係者へのヒアリング）	
		人口減少対策に関する道民意向の把握（道民意識調査）	
	調査分析・検証	北海道人口動態実態調査・要因分析の実施	
		検証ワーキンググループの開催（計4回開催） 〔 現行戦略の検証、課題の抽出、次期戦略の方向性の検討 〕	
R6年度	5月～7月頃	5/22 北海道創生協議会（検証WG結果報告、骨子策定に向けた議論）	
		次期戦略 [骨子]	
		市町村・団体意見照会	
	8月～10月頃	北海道創生協議会（素案策定に向けた議論）	
		次期戦略・人口ビジョン [素案]	
		パブリックコメント、市町村・団体意見照会	
	11月頃	北海道創生協議会（原案策定に向けた議論）	
		次期戦略・人口ビジョン [原案]	
	冬頃	次期戦略・人口ビジョン [決定]	
		新戦略スタート	
	3月	現行戦略推進期間満了	

【国】
当面の重点課題
重検課
(6月頃)

【国】
デジタル戦略改訂
(年末)

2 次期総合戦略の骨子策定に向けた主な論点

(1) 「めざす姿」について

現行戦略の「めざす姿」を基本とした上で、第2期「北海道創生総合戦略」検証報告等を踏まえ検討。

現行戦略のめざす姿

幅広い世代が集い、つながり、心豊かに暮らせる包容力のある北海道

(2) 「重点的に取り組むべき事項の方向性」について

今後も長期的に人口の減少が見込まれることから、検証報告において抽出された8つの課題等に対し、「人口減少進行の緩和」と「人口減少社会への適応」という2つの観点から重点的に取り組むべき事項の方向性を検討していくこととする。

緩和の観点

自然減、社会減の両面から、粘り強く継続的に取り組み、人口減少のスピードを緩和

適応の観点

現在より少ない人口でも、一人ひとりが幸せを実感でき、経済的にも精神的にも豊かで安心して住み続けられる地域を創るとともに、活力ある社会・経済を構築

(例)

人口減少進行の緩和

①少子化	○誰もが将来に希望を持ち一人ひとりの可能性を発揮できる社会、結婚したい、子どもを産みたい、育てたいという希望がかなう環境の整備
②女性・若年層の転出超過	○女性や若者をはじめ、多様な人材を惹きつける「仕事」と「地域」を創造
③人口の札幌一極集中・地域偏在	○過度な人口集中・偏在を緩和し、持続可能な地域づくりを推進

人口減少社会への適応

④持続可能な地域づくり	○人口の規模や構成に適応した持続可能な地域づくり
⑤潜在力発揮による成長	○本道の優位性、ポテンシャルを活かした社会・経済の活性化
⑥人材確保	○多様な人材の労働参加の促進 ○人材の確保対策の強化 ○産業・暮らしにおけるDXの推進等による生産性向上
⑦外国人の受入	○外国人に選ばれ、安心して働き暮らすことができる環境整備
⑧誰もが活躍できる社会	○多様性が尊重され誰もが活躍できる包容力のある社会の実現